

図画工作科

図画工作科部 貞永 瞳 毛塚 鮎美 大塚 裕貴
研究協力者 郡司 明子

1 図画工作科における「教科本質的な学び」について

対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分にとっての意味や価値をつくりだす学び

図画工作科の本質的な意義の中核をなす見方・考え方は「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」である。この見方・考え方を踏まえ、図画工作科の教科本質的な学びを「対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分にとっての意味や価値をつくりだす学び」とした。本校では、「共によりよい生活を創造する子ども」の育成を目指している。「共によりよい生活を創造する子ども」を育成するためには、図画工作科の教科本質的な学びが欠かせない。図画工作科の教科本質的な学びでは、生活や社会における身の回りの対象や事象の形や色などに関わる造形活動を通して、子どもたちが、自分にとっての意味や価値をつくりだしていく。このような学びを繰り返していく中で、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力が育成されていく。そして、既存の価値や文化、日々の生活や、自分を取り巻く社会や世界に対しても、自分にとっての意味や価値を見いだすことができるとともに、豊かな情操が育まれ、共によりよい生活を創造していくことができるようになる。

2 研究の方向

図画工作科の教科本質的な学びは「対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分にとっての意味や価値をつくりだす学び」である。この教科本質的な学びにおける「自信」を深める学びを実現することは、自分がつくりだした意味や価値の深まりという意味をもつ。

教科特性に着目すると、図画工作科では、造形活動を通して自分にとっての意味や価値を追求していくため、子どもに学習活動を委ねる場面が多い。このような学習活動の中で自信を深めることは、様々な造形活動を試したり、自己のイメージや思いの実現が困難でも、造形活動に取り組み続けたりして、自分にとっての意味や価値をつくりだそうとすることや互いの造形活動は安易に否定されないことによって、臆することなく自分なりの造形活動に取り組めることにつながる。このように、図画工作科の学習の中で前向きな気持ちで造形活動に取り組むことは、よりよい作品や活動をつくること、つまり自分にとっての意味や価値を深めようとする事につながるのである。このような学びを実現するためには、子どもたちが、造形活動の中で、自分がつくりだした意味や価値の自覚を積み上げる過程が必要になるとともに、自他の作品や活動を鑑賞し合いながら、自分では気付かなかった作品や活動のよさや美しさに気付く学習を通して、造形活動の充実感を高める必要があると考える。

そこで、図画工作科では、「自信」を深める学びを実現し、共によりよい生活を創造する子どもたちを育成できると考え、研究を進めていくこととした。

3 研究内容

(1) 図画工作科における「自信」

図画工作科の教科本質的な学びにおける「自信」を以下の表のように捉える。

自分ではできる	対象や事象と関わりながら、自分にとっての意味や価値をつくりだせるという自信
努力すればできる	実現が困難な自己のイメージや思いに対しても、繰り返し対象や事象と関わり続けることで自分にとっての意味や価値をつくりだせるという自信
認められている	互いの造形活動や互いの造形活動に対する考えは安易に否定されないことによって、臆することなく自分なりの造形活動ができるという自信

(2)「自信」を深める学び

図画工作科における「自信」を深める学びを以下の表のように捉える。

問題解決的な学習の過程	学習活動	「自信」を深める学びに必要な要素
【であう】過程	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象と出会い、試しの関わりを通して形や色などの造形的な視点を見いだす。 イメージや思いを広げながら、造形的な課題をもつ。 	●造形的な課題の解決への見通しをもつこと
【あらわす・ひろげる】過程	<ul style="list-style-type: none"> イメージや思いを基に、材料や用具の使い方を工夫したり、見いだした工夫からイメージや思いを具体的にしたりして、自己の造形活動を追求していく。 自他の造形活動を鑑賞し合いながら、よさや美しさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●造形的な課題の解決に向けて、つくりだしてきた自分にとっての意味や価値を自覚すること ●他者の造形活動からよさや美しさを感じ取ること
【ふりかえる】過程	<ul style="list-style-type: none"> 他者の造形活動を鑑賞したり、題材を通して自分がつくりだしてきた意味や価値を振り返ったりする。 	●造形的な課題の解決に対して、自分や他者がつくりだしてきた意味や価値の蓄積を自覚すること

図画工作科における「自信」を深める学びの実現には、造形活動に対する子どもの充実感を高めることに向けて、表内の4つの要素が必要であると考えられる。【であう】過程の「造形的な課題の解決への見通しをもつこと」は、表したい作品や活動へのイメージや思いを広げたり、必要な材料や用具を考えて造形活動を工夫しようとしたりすることにつながる。【あらわす・ひろげる】過程の「造形的な課題の解決に向けて、つくりだしてきた自分にとっての意味や価値を自覚すること」は、単位時間での造形活動に対する充実感を高めることや、作品や活動がよりよくなるために必要な造形的な視点、材料や用具を確認し、次時の造形活動への見通しをもてることにつながる。また「他者の造形活動からよさや美しさを感じ取ること」は、他者の作品や活動から、意味や価値を見いだそうと関わることを通して、自分では気付かなかった作品や活動のよさや美しさに気づき、互いの造形活動を尊重し合えることにつながる。【ふりかえる】過程の「造形的な課題の解決に対して、自分や他者がつくりだしてきた意味や価値の蓄積を自覚すること」は、造形的な課題の解決に至るまでの過程で感じた充足や行き詰りを自覚することで、題材終末での充実感を高められることにつながる。

(3)「自信」を深める学びに求められる子どもの様子

図画工作科における「自信」を深める学びに求められる子どもの様子を問題解決的な学習の過程に沿って表すと以下ようになる。

問題解決的な学習の過程	求められる子どもの様子
【であう】過程	【対象や事象への興味・関心の高まり】 <ul style="list-style-type: none"> ・物怖じせずに対象や事象に関わる様子 ・試行しながら繰り返し造形活動に取り組む様子 ・造形活動への期待に関する記述や発言をする様子
【あらわす・ひろげる】過程	【造形活動への没頭】 <ul style="list-style-type: none"> ・つくった作品や活動を、さらにつくりかえる様子 ・笑顔や真剣な表情で造形活動に取り組む様子 【自己の造形活動に対する愛着】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品や活動に対するよさや美しさについての振り返りに記述したり、他者に伝えたりする様子 ・嬉々として自分の作品や活動について語る様子 【他者の造形活動に対する尊重】 <ul style="list-style-type: none"> ・他者の作品や活動に対する問いかけや称賛、共感をする様子
【ふりかえる】過程	【自己の造形活動に対する愛着】 <ul style="list-style-type: none"> ・嬉々として自分の活動や作品について語る様子 ・自分の作品や活動への充実感に関する記述や発言をする様子

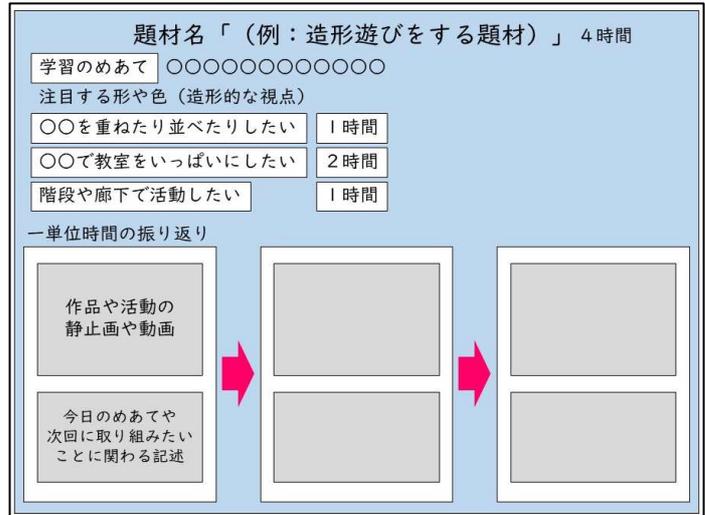
(4) 学びのデザイン

① 自信を深める学びを実現する学びのデザイン

「自信」を深める学びを実現するために、以下のデザインを構想した。

【「アートプロジェクトシート」の活用】

造形活動に対する充実感を高めるために、「造形的な課題の解決への見通しをもつこと」、「造形的な課題の解決に向けて、作りだしてきた自分にとっての意味や価値を自覚すること」、「造形的な課題の解決に対して、自分や他者が作りだしてきた意味や価値の蓄積を自覚すること」の要素が必要である。これまでの実践では、子どもは造形活動に取り組む中で、次々に意味や価値をつくりだしながら、作品や活動を刻々と変化させていた。一方で、自分にとっての意味や価値をそ



〈図1〉「アートプロジェクトシート」のレイアウト例

その都度自覚することが難しく、単位時間の振り返りでは、作品や活動の出来映えに関する記述の傾向が強くなり、過程で作りだしてきた意味や価値の自覚に課題が見られた。そこで、子どもが、造形的な課題の解決への見通しをもちながら、造形活動の過程を記録・蓄積し、他者と共有できる「アートプロジェクトシート(以下、APシート)」を活用することで、「自分はできる」「努力すればできる」という自信を深められると考えた。また題材の終末には、他者の造形活動の過程にも目を向ける機会を設定することで、次題材に向けて、互いの「認められている」という自信を深められると考えた。

「APシート」は、自己の造形的な課題の解決に向けて、ロイロノート上の1枚のシートに学習計画や単位時間の振り返りを記録・蓄積するものである。(図1)

【であう】過程において、学習計画を作成する際には、「学習のめあて」や「造形的な視点」、教師が提示した「題材の時数」などの要素を基にする。記述される内容は、これらの要素に加え、各領域によって記述が異なると考えられる。例えば、絵や立体、工作に表す領域では、必要な製作工程と、題材時数とを当てはめた学習計画が作成されたり、造形遊びや鑑賞領域では、対象や事象との関わりを基に、取り組みたいことのリストアップによって学習計画が作成されたりする。題材導入時で学習計画を作成することは、表したい作品や活動へのイメージや思いを広げたり、必要な材料や用具を考えて造形活動を工夫しようとしたりするなど、造形活動への見通しをもつことができる。

【あらわす・ひろげる】過程では、単位時間の導入において、APシートに記述した自己の造形的な課題の解決に向けて、造形活動をよりよくするために必要な造形的な視点や材料や用具などを確認する。終末には、本時で作りだした自分にとっての意味や価値を自覚することや、イメージや思いと造形活動を照らして実現の度合いを確認することを通して、次時の造形活動への見通しをもつ。なお、意味や価値の自覚を促すために、後述の教師の関わりを合わせて行う。

【ふりかえる】過程では、蓄積された単位時間の振り返りを通して、題材全体の取組を振り返り、造形活動の変化、充足や行き詰りを感じた場面を自覚することで、造形活動の過程と作品や活動を関連付けながら、よさや美しさを自覚できる。題材の終末には、自他の造形活動の過程を共有する機会を設定する。この機会では、自分の造形活動について、イメージや思いとこれまでの活動過程とを関連付けながら、他者に伝えることで、伝えられた他者は作品や活動の出来映えだけでなく、造形活

動の過程に注目し、他者の意味や価値について尊重できるようになると考える。

A Pシートは、題材の途中で、造形活動へのイメージや思いが変化したときや、活動の進捗に応じて記述を更新していくこともできる。また、前述の要素が含まれていれば、指定の形式は設けない。

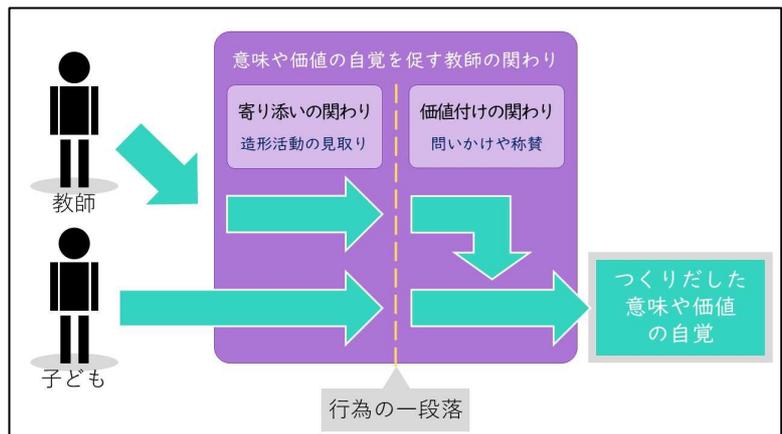
【学習方略の共有】

「認められている」という自信を深めるためには、【あらかず・ひろげる】過程において、「他者の造形活動からよさや美しさを感じ取ること」が欠かせない。そのために互いが作りだした意味や価値や、表現に対する互いの考えは安易に否定されないという、学習に取り組む際の心理的安全を担保する必要がある。そこで、子どもが充足や行き詰りを感じた際に、他者の作品や活動から、よさや美しさに気づき、互いの作品や活動を尊重し合えるよう、互いの造形活動を鑑賞できる環境を設定する。これは教師が、子どもが充足や行き詰りを感じた際に、出歩いて鑑賞したり、作品や活動について話し合ったりしてもよいことを題材や単位時間の導入で伝えることや、活動する際の座席やグループ、材料や用具置き場などの環境を構成することである。また単位時間の導入時や活動の途中で適宜、教師が子どもの作品や活動への共同注視を促したり、造形的な視点を基にした鑑賞の機会を設定したりし、他者の造形活動への関心を促すようにする。

②教師の関わり

【意味や価値の自覚を促す関わり】

「自分はできる」、「努力すればできる」という「自信」を深めるためには、「子どもが造形活動を通して、自分にとっての意味や価値を自覚すること」が必要である。そこで、教師の関わりとして、子どもが作りだした意味や価値の自覚を促す関わりを行う。この関わりは前半の「寄り添いの関わり」と後半の「価値付けの関わり」とを合わせて行う。



<図2 教師の関わりについて>

「寄り添いの関わり」では、教師は、子どもの造形活動を近くで観察し、頷きや笑顔などの共感的な姿勢を示すとともに、子どもの行為を基にイメージや思い、材料や用具の工夫等を見取る。教師が子どもの造形活動の過程に寄り添うことは、教師による造形活動の深い見取りにつながるとともに、子どもに対して造形活動の過程からよさを見取っているという教師の姿勢を伝える意図もある。「価値付けの関わり」では、見取った行為を基に問いかけや称賛を通して、子どもの造形活動を価値付けることで、子どもが作りだした意味や価値の自覚を促していく。なお「価値付けの関わり」は、子どもの造形活動への取組を観察し、行為が一段落した様子に合わせて以下の表のように行う。

	価値付け関わり の例	目的
【問いかけ】	○自己の造形活動に対するイメージや思いを問う 例：「どんなイメージで取り組んでいるの」	・イメージや思いと造形活動のつながりの自覚を促す
	○表し方の前後を比較し、イメージの違いを問う 例：「やってみてどんな感じになった」	・イメージや思いと造形活動のつながりの自覚を促す
	○材料や用具の用い方を問う 例：「どうしてこのように使ったの」	・表し方の工夫とイメージや思いとのつながりの自覚を促す

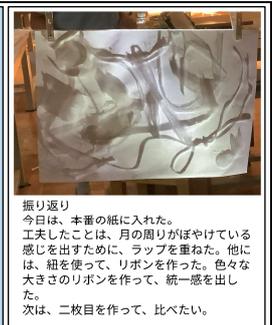
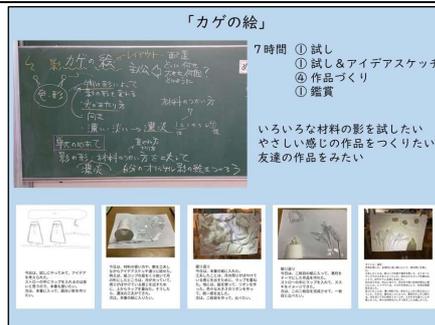
【称 賛】	○作品や活動をつくりかえている様子を称賛する 例：「いろいろな表し方が試せていいね」	・ 自己の造形活動への取組のよさへの気付きを促す
	○他者の造形活動の工夫を取り入れている様子を称賛する 例：「友達の表し方を取り入れられていいね」	・ 自己の造形活動への取組のよさへの気付きを促す
	○表し方の前後を比較し、教師が感じ取ったよさや美しさなどを基に称賛する 例：「○○のような感じがしていいね」	・ 自己の造形活動のよさや美しさなどのへの気付きを促す

これらの教師の関わりは、前時までの子どもの様子やAPシートの振り返りから、造形活動の変化が期待される記述や発言、充足や行き詰りに関する記述や発言を見取り、単位時間の中で、事前に設定した5～8名程度の子どもに対して行う。このような関わりを題材の中で毎時間設定しながら、一人一人の子どもに対して、自分にとっての意味や価値の自覚を促していく。

【具体例】5年「カゲの絵（絵に表す）」

【「APシート」の活用】

シート上段左には、学習のめあてや造形的な視点、題材の時数が書かれた導入時の板書の画像を貼り付けている。上段右には、題材の時数を基に自分の造形活動への簡潔な計画と取り組みたい造形活動について記述し、見通しをもつ。シート下段には、これまでの振り返りを左から時系列に並べている。振り返りには、作品や活動の写真、本時のめあてに対する気付きや造形活動の工夫などの記述、次時に取り組みたいことを記述する。なお、2時間続きの学習があるため、APシート内の振り返りシートは5枚になっている。



【学習方略の共有】

- 環境設定…教室の四隅に柱を設置し、柱と柱を紐で結ぶことで、系に作品を掛けて鑑賞できる環境を設定する。
- 機会設定…教室の照明を落とし、影の形や濃淡、構成などの造形的な視点を基に互いの作品を鑑賞する機会を設定する。



【意味や価値の自覚を促す関わり】

寄り添いの関わり
紙面に材料を取り付ける様子を基に、構成に関わる工夫を見取る。



価値付けの関わり
構成の意図を問いかけるとともに聞き取った意図と表現とを関連付けて称賛する。

4 成果と課題

本校図画工作科における問題解決的な学習の中で、「共によりよい生活を創造する子ども」の育成に向けて、「自信」を深める学びのデザインについて研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

○成果

A Pシートを用いて、題材の導入時にもったイメージや思いを可視化し、造形活動への見通しをもつことで、表したいイメージや思いを少しずつ具体的にしていって子どもの様子が見られた。また、単位時間や題材の終末に、A Pシートを共有することは、他者の計画や表したいこと、振り返りを見られるため、自らの造形活動と比較する中で、作品や活動の参考にしたり、造形活動への見通しをもったりする姿が見られることにつながった。また、刷る場所を図工室中央に設置する、試しの板やトレーシングペーパーなどの材料を図工室前方に設置する、用具の数を限定するなどの環境設定により、互いの作品や活動について見たり話し合ったりする姿が見られた。その中で、子ども同士で問いかけや称賛、共感などの関わりをする姿も見られた。これは、互いの「認められている」という「自信」の深まりにつながったと考える。また教師の関わりでは、子どもの作品や活動の変化を見取ったり、子どもの充足や行き詰りに応じて声をかけたりすることで、「自分是可以る」「努力すればできる」という自信を深めることができたと考える。

○課題

A Pシートの学習計画を見直すことや、修正することは、活動への見通しをもつだけでなく、前時までの活動の蓄積を振り返り、これまでの努力を自覚することで充実感に結び付けたり、「努力すればできる」という「自信」を深めたりする意図もある。そのため、自分の計画を活用するよさに気付くことが必要である。また、「認められている」という「自信」の深まりに対して行ったA Pシートの共有は、他者がつくりだしてきた意味や価値の蓄積について知るに留まり、よさや美しさに気付くまでに至らないことがあった。そのため、教師が振り返りの蓄積に対して、価値付けの関わりをしていくことや、子どもがつくりだしてきた意味や価値を見返す機会を設定する必要があると考える。また、子ども同士でも、互いの造形活動の蓄積や努力を知り、感じたよさや美しさについて称賛したり助言したりできるよう教師の言葉がけによって促す必要があると考える。教師の関わりには、関われる人数やタイミングに限界があるため、子ども同士の関わりを充実させることで、互いがつくりだした意味や価値からよさや美しさに気付き、「自信」の深まりに結び付くと考える。

【参考文献】

- ・福田隆真，福本謹一，茂木一司（2010）『美術科教育の基礎知識』建帛社。
- ・奥村高明，有元典文，阿部慶賀（2022）『コミュニティ・オブ・クリエイティビティ』日本文教出版。
- ・大塚裕貴，井上昌樹，茂木克浩，亀井章央，貞永瞳，山根茜加里，渡邊彩，矢島亜依莉（2025）『子どもの表現を捉える教師の「まなざし」について—図画工作科「造形遊びをする活動」の時間を事例として—』群馬大学共同教育学部附属教育実践センター，群馬大学教育実践研究第42号。